

付表2

集団のレベルに応じた課題志向集団のもちい方

集団のレベル	並行集団	短期課題集団	長期課題集団	協同集団	成熟集団
集団の特性	場を共有するが他者との交流を必要としない個々の集まり。各自が自分の作業に取り組む	多少の相互関係、協調、競争がみられ、短期間の課題であれば他者と交流をもつことができる	自己の興味が中心ではあるが、比較的長期にわたる課題に協力することができる	比較的同質（同性、同世代）な集団で、他者を理解した課題に即した相互の交流がおこなえる	お互いの違いを認めて集団全体の目的にそって課題を遂行できる
通常の発達年齢	1歳半～2歳	2歳～4歳	5歳～7歳	9歳～12歳	15歳～18歳
集団の課題（目標）	<ul style="list-style-type: none"> 凝集性の高くないひとの集まりに慣れる 他者の存在を認める 他者に対する関心を高める 集中力を改善する 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に対する基本的な信頼感の発達 課題を通じた相互交流の促進 課題を通して相互に援助する関係の体験 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の一員として課題にそった役割行動を引き受けて実施できる 他者の権利を認め尊重する 集団の規範や目標にもとづいて行動する 相互に協力したり競合したりできる 	<ul style="list-style-type: none"> 集団に対するネガティブな感情もポジティブな感情も表現できる 他者の欲求を理解し、応じることができる 集団所属意識をもった役割行動ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の課題遂行に必要なであれば、通常とは少し異なる役割行動もできる 集団の課題遂行と他者の欲求充足のバランスを保つことができる 集団の規範を受け入れ、建設的な意見をいうことができる 集団の凝集性を高め、集団内の葛藤や問題を解決できる
適切な集団の大きさ	<ul style="list-style-type: none"> 自閉的な傾向の強い場合や認知症老人のサブグループは5～6名程度がよい 通常は10名前後 	<ul style="list-style-type: none"> 7～8名が適しているが、4～10名程度なら可能 レジャー的なものであれば20名前後でも可能 	<ul style="list-style-type: none"> 少し長期にわたり参加数が安定するには、多少欠席があっても活動が滞らないように、7～12名程度にしておく 	<ul style="list-style-type: none"> 7～8名から12～13名程度 	<ul style="list-style-type: none"> 10～15名程度
1回の活動時間	<ul style="list-style-type: none"> 実際の活動時間は、成員の状態に応じ30～60分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 成員の状態と課題に応じて30～90分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じて60～120分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 90分～必要時間 	<ul style="list-style-type: none"> 必要時間
治療者・指導者の役割	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題を援助する 必要な器具や材料を準備する 他者の活動の妨害になるような行為を防止する 個々の安心感、安全感、依存欲求などの充足をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 相互の交流が必要な課題を選び、個々の役割を提示する 必要な器具や材料を準備する 個々の安心感、安全感、依存欲求などの充足をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 成員同士で計画し、相互の役割を決め、実行できるように助言したり励ます ポジティブなフィードバックにより、個々に対し情緒的な支持をする 	<ul style="list-style-type: none"> 多少の支持 リーダーとしての役割をとらず、ファシリテーターとして助言する程度 	<ul style="list-style-type: none"> 成員の一員として行動する。
留意する事項	<ul style="list-style-type: none"> ひとがいるだけで刺激を受けたり、興味が拡散する場合がありますので、個々の観察を怠らない 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗を避けようとしたり、援助を求めたり応じたりできずに一人で作業する場合がありますので、適度な交流促進が常に必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 集団に所属できない者がでてくる場合がある 		
適応となる対象やグループ	<ul style="list-style-type: none"> 対人緊張、場面緊張、自閉傾向がある者の小グループ 認知症老人の小グループ 	<ul style="list-style-type: none"> やや対人緊張、場面緊張、自閉傾向がある者の小グループ オープングループ 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の自己課題をもつ者 	<ul style="list-style-type: none"> デイケアなどの社会適応技能を学習するグループ 	<ul style="list-style-type: none"> 一般の協同活動 社会参加を促進するグループ

(Mosey, 1986) を参照し作成 (山根)。Project group, Egocentric cooperative groupはこれまでそれぞれ課題集団、自己中心的協同集団などと訳されているが、短期課題集団、長期課題集団とした。